

あっ か どう 安 家 洞

日本洞穴探検協会

1:所在地:岩手県下閉伊郡岩泉町大字安家

2:文化財種別:文部科学省文化庁指定天然記念物 指定日 昭和 55 年 2 月 7 日

3:総延長:23.7km

4:概要

安家洞は安家石灰岩層(南北 50km 最大幅4km)のほぼ中央の東端に位置している。我々は河川法に準拠し、本洞を地下水の上流から奥本洞、山内新洞、東本洞、西本洞に分類した。

奥本洞は迷路状に発達し、雪解けや大雨時には最奥部の「洗身の池」から水流が流出し、西本洞に流入する形跡が認められる。西本洞は洞内では最も低い位置にあり、増水時水没することが確認されている。山内新洞は安家洞の中央部、上に向かって階段状に伸びる 165m の煙突状縦穴である。登りの起点となる場所は、「希望の池」と称するプールがあり通過が困難である。最奥部第 5 ホールでは、空気が人間の通過できない縦穴を山上に向かって流れ、外界への通気口があることを示している。山上までの未解明部分の高さ 140m。東本洞は洞口から約 550m が観光化され、一般公開されている。(4 月中旬から 11 月下旬まで)東本洞は安家洞で高い位置にあり、二次生成物が良く発達している。今後は南と西に点在する地底湖の探検が課題である。

5:探検経過

1951 年岩手県山岳協会が安家村(当時)からの依頼で訪れたのが、外部から初めての探検である。しかし、洞穴の客観的評価はできなかつたため「大きな鍾乳洞」にとどまった。数年後、京大の生物学者が祝井沢の穴(安家洞)を訪れたが、一の関が水没していたため引き返し「小さな洞穴」と評価した。1959 年龍泉洞調査に訪れていた日本洞窟地下水研究会が、安家選出の町会議員から強い要請を受け入洞し、歩測により 4700m 以上という数値が得られ、日本最長洞穴と推定した。2 年後の 1961 年長谷川善和がプロデュースし、同会と日本ケイビング協会が安家洞探検隊を編成(L 吉井良三)。探検測量の結果 7650m との長さが発表された。このとき地元からの依頼で洞穴名が吉井良三氏により「安家洞」と命名された。1962 年日本ケイビング協会(L 山内浩)が地質、生物、地下水生物調査、補正測量を行い 8000m+ α とした。以後、国内では安家洞を超える洞穴は発見されていない。

1972 年、元管理者が石灰岩採掘問題と借地権をめぐる裁判を理由に、1991 年まで観光客以外文化庁の調査を含め一切の調査を拒否した。1991 年、元管理者が裁判に敗訴し排除され、安家洞開発有限会社(工藤勇吉代表)の管理となつて、1992 年 9 月から Japan Covers Club II (現、日本洞穴探検協会)により探検が再開された。その結果 2006 年 3 月総延長 23.7km と発表した。

(文中敬称略)